

インフラマネジメント基盤検討事業の進捗状況について

技術企画課

1 要旨

AI/IoTなどのデジタル技術を活用したインフラマネジメントの仕組みづくりとして、県が保有するデータのオープン化や、国・市町や民間企業等も含め様々な主体が保有するデータの連携・活用を行うシステム基盤の検討を進めており、この基盤を活用した取組の全体像をとりまとめたので報告する。

2 目的

- (1) 頻発する集中豪雨などによる甚大な被害の発生、既存インフラの老朽化の進展、人口減少・少子高齢化の進行等による技術者不足等に対応するため、AI/IoTなどのデジタル技術を最大限に活用し、官民連携による最適なインフラマネジメントである「**広島デジフラ構想**」を進めることで、県民の安全・安心の確保、インフラを利用する人の利便性向上を目指す。
- (2) インフラマネジメント基盤検討事業では、道路や河川などの公共土木施設に関するあらゆる情報を一元化・オープン化し、各種データの融合や市町・民間企業との連携により、新たなサービスや付加価値の創出が可能となるシステム基盤を構築する。

3 インフラマネジメント基盤を活用した取組の全体像

県保有データに加え、民間企業等が保有するデータを一元化・オープン化するとともに、官民でデータを共有・活用しながら様々な取組を推進する。

◆ データの一元化・オープン化の推進

インフラに関係する県保有データを一元化し、県民や民間企業等が無料で閲覧・ダウンロードできるオープンデータとして広く公開するとともに、県保有以外のデータについても、様々な主体から収集・連携し、公開する。

◆ 建設分野における生産性向上

インフラ事業者や国・市町等の関係者向けに公開APIを通じたインフラデータの利活用を推進し、管理者の枠を超えた業務の効率化やサービス向上、3次元データの整備・活用による見える化や維持管理の高度化を図る。

◆ 官民協働でのチャレンジ

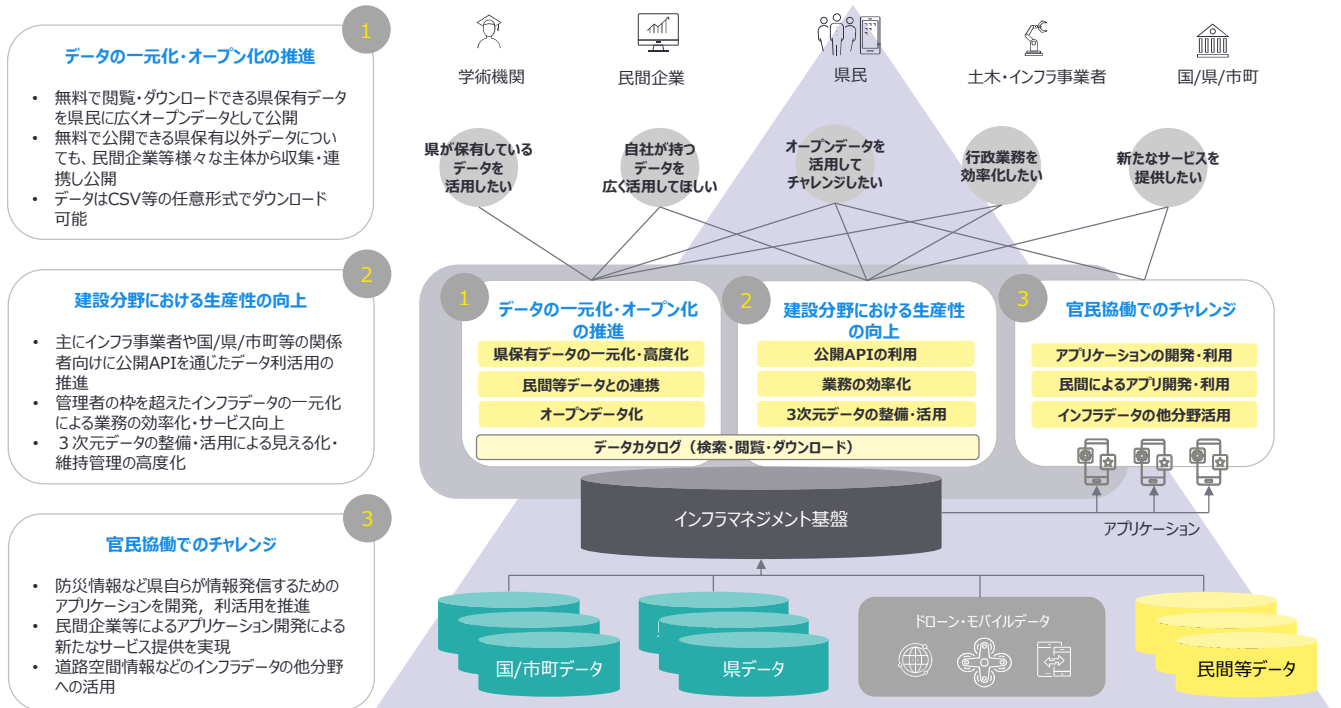
災害リスク情報など、県自らが情報発信するためのアプリケーションの開発・利活用を推進するとともに、オープンデータを活用した民間企業等におけるアプリケーション開発を促進し、地域課題の解決や新たなサービス・付加価値の創出を目指す。

4 今後の予定

- (1) 「**広島デジフラ構想**」の推進に向けて、デジタル技術やインフラデータを活用した様々な取組をより具体化し、令和2年度末を目途にとりまとめを行う。
- (2) システム基盤については、基本事項に基づくシステム機能要件やシステム構成などの詳細な仕様等の検討を令和2年度下半期に行い、令和4年の運用開始を目指して令和3年度に基盤を調達する予定。

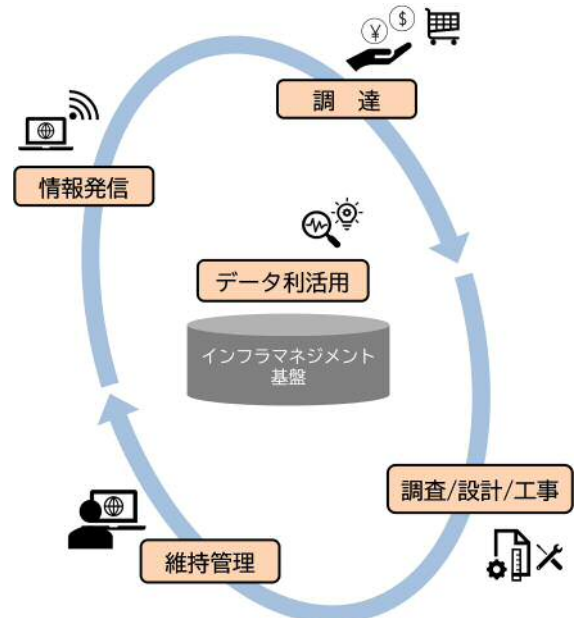
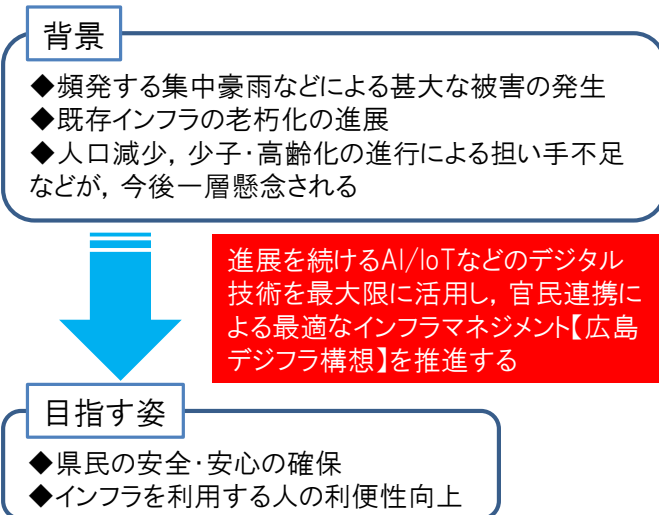
項目	令和2年度			令和3年度
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
基本事項の整理	業務終了(9月14日)▽			
システム基盤の検討		▽契約締結(10月上旬)		
システム基盤の調達				

インフラマネジメント基盤を活用した取組の全体像



※API: アプリケーション・プログラミング・インターフェイスの略, コンピュータやソフトウェアの管理するデータなどを他のプログラムから利用するための機能・仕様

【参考】広島デジフラ構想の概要



・ 具体的な取組イメージ



除雪作業の支援
経験が浅いオペレーターでも作業を行うことが可能となる除雪支援技術の構築



法面崩落の予測
画像解析やセンサー等を活用した崩落の前兆の把握などによる法面崩落の予測

災害リスクの情報発信



様々なリスク情報を一元化し、リアルタイムで県民に提供